

口は健康のもと Vol.104 虫歯じゃないのに歯がしみる！

原因は象牙質知覚過敏症

今回から3回にわたって歯の硬組織疾患についてお話したいと思います。虫歯がないのに歯がしみるのがよくあります。歯の表面はエナメル質と呼ばれる、ヒトの体の中で一番硬い組織で覆われています。また、根の表面はセメント質で覆われています。

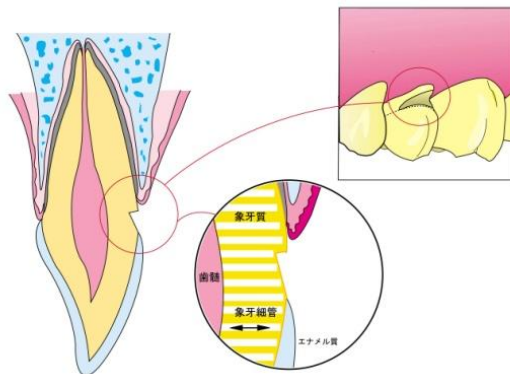
このエナメル質やセメント質がけずれて歯の表面に象牙質が露出し、そこに様々な刺激(冷たい水など)が加わると一過性の鋭い痛みを生じるのが象牙質知覚過敏症です。この症状は前歯や糸切り歯の奥にある小さな奥歯(小臼歯)の歯茎に近い表面によく起こります。

症状が軽い時は象牙質知覚過敏症に効果がある薬用成分を含む歯磨き粉を用いてブラッシングを行うと、痛みの伝達が遮断されます。

この方法で症状が軽減しない時には歯科医院でしみる部分に薬剤を塗る、レーザーを照射する、歯の表面をつめるなど様々な治療方を受ける必要があります。一回の治療で症状が軽減しない場合は何回か繰り返し行う必要があり、症状が強くなり持続的な痛みを感じるようならば歯の神経をとらなければならない場合もあります。

お口の中の健康を維持し、自分の歯でおいしく食事をとっていただくために半年に一度は歯科医院で定期健診を受けられることをお勧めします。

象牙質知覚過敏症・くさび状欠損



奥羽大学歯学部附属病院
総合歯科 講師 佐藤 穂子

